

(様式2)

## 指定管理者制度導入施設の管理運営状況【対象年度:令和4年度】

※1～6:所管課記入、7:指定管理者記入、8～9:指定管理者及び所管課記入、10:指定管理者及び所管課記入(実施した場合)

所管部・課	観光部山岳高原観光課
指定管理者	(一社)長野県山岳協会事業管理

### 1 施設名等

施設名	長野県山岳総合センター	住所	大田市大字大町8056-1
		電話	0261-22-2773
		ホームページ	https://www.sangakusogocenter.com/

### 2 施設の概要

設置年月	昭和44年5月	根拠条例等	長野県山岳総合センター条例
設置目的	山岳に関する研究及び調査、安全な登山に関する知識及び技能の普及啓発その他の山岳における野外活動に関する教育事業、山岳における野外活動に関する普及事業を行う。		
施設内容	教室・講堂及び体験室 宿泊設備 7人部屋(2段ベッド)7室 食堂、浴室		
利用料金	宿泊施設:一般1,050円、小・中学生及び高校生520円 教室、講堂及び体験室:専用する場合2,700円/3時間、専用しない場合150円/3時間 人工岩場:1人1日100円		
開所日	閉館日(月曜日、祝日の翌日、年末年始)		
開所時間	9:00～20:00		

### 3 現指定管理者前の管理運営状況

期間	管理形態	管理受託者又は指定管理者等
平成27年度～令和元年度	指定管理	長野県山岳協会
平成24年度～平成26年度	指定管理	長野県山岳協会・やまたみ

### 4 報告年度の指定管理者等

指定管理者	一般社団法人長野県山岳協会事業管理	指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日(5年間)
選定方法	公募		

### 5 指定管理料(決算ベース)

令和4年度(A)	令和3年度(B)	差(A)-(B)	※(A):当該年度、(B):前年度(以下同じ)
27,018千円	26,899千円	119千円	
	増減理由	燃料高騰及び新型コロナウイルス感染症の影響による補填、感染防止対策費用の増	

### 6 指定管理者が行う業務

・施設及び設備の維持管理に関する業務 ・センターの利用の許可及び利用に関する業務 ・山岳に関する研究及び調査並びに山岳における野外活動に関する教育事業及び普及事業の企画及び実施に関する業務 ・上記に付帯する業務
--

### 7 利用実績等

(1) 利用実績【指標:利用者数・利用件数・稼働率】

(単位:人、件、%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和4年度(A)	499	634	673	646	592	507	519	551	304	309	292	463	5,989
令和3年度(B)	435	664	836	746	570	198	434	420	393	98	0	6	4,800
(A)/(B)	114.7	95.5	80.5	86.6	103.9	256.1	119.6	131.2	77.4	315.3	#DIV/0!	7716.7	124.8
増減要因等	コロナ感染防止対策のための利用人数制限措置をとる期間が少なかったこと、利用者が安心して楽しく施設利用することができるように心掛けたことで、施設全体の利用者数は増加した。												

(2) 利用料金収入

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和4年度(A)	35	39	55	98	55	63	64	72	52	58	41	65	697
令和3年度(B)	47	50	73	67	39	12	28	49	61	16	0	7	449
(A)/(B)	74.5	78.0	75.3	146.3	141.0	525.0	228.6	146.9	85.2	362.5	#DIV/0!	928.6	155.2
増減要因等	施設利用者が増えたことにより、利用料金収入が増加した。												

(様式2)

(3) 利用料金見直しの状況(前年度と比べて)

見直しの有無	見直した場合はその内容
有・ <b>無</b>	

(4) 開所日・時間の見直し等の状況(前年度と比べて)

開所日数	開所時間	見直しの有無	見直した場合はその内容
令和4年度(A): 289日 令和3年度(B): 290日	令和4年度(A): 9:00~20:00 令和3年度(B): 9:00~20:00	有・ <b>無</b>	

(5) サービス向上のため実施した内容

<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関ホール周辺及びボルダリング壁のある体験室の清掃は毎日、宿泊室を含めた館内全体の清掃は週1回行った。</li> <li>・ボルダリング壁と人工岩場のホールドの付け替えとルートセッティングを実施した。ボルダリング壁の一部については、マンスリーウォールとして毎月ホールド替えをすることで、利用者に飽きのこない工夫を行った。</li> <li>・人工岩場は、年1回専門業者による設備点検を実施するとともに、職員による定期的な点検を行った。</li> </ul>
--

(6) その他実施した取組内容

<ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県競技力向上対策本部所有で長野県山岳協会が所有しているボルダリング壁2基を、令和4年4月末に山岳センター体験室に移設した。子どもから大人まで多くの方が利用していて、利用者数増にもつながっている。</li> <li>・建築物の定期点検結果に基づき、ベランダ手摺改修工事を実施した。</li> </ul>
--

(7) 利用者の主な声及びその対応状況

<p>○古い建物をきれいに管理していて、気持ちよく利用することができた。 ○一部の暖房機器が新しくなっていて良かった。</p> <p>○教室とクライミング用の支点設備のある講堂、ボルダリング設備が一つの建物内にあるので利用しやすい。</p> <p>●施設が古い。 ●2段ベットの転落防止柵をまたぐのが大変で使いづらい。 ●夏はエアコンがあると嬉しい。</p> <p>→構造的な課題については、指定管理者として県に要望として伝達した。</p>
--

8 管理運営状況(実施状況及びそれに対する評価を記入)

※項目は施設の状況に応じ加除修正してください。

項目	指定管理者	所管課	評価
施設の目的に沿った管理運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で、施設利用制限や自主事業の講習会の中止が多少あったが、協定書、仕様書及び事業計画書に基づき運営することができた。</li> <li>・ボルダリング壁と人工岩場、宿泊施設は、利用者が安心して楽しく利用できるように、点検や整備、清掃に心がけた。</li> <li>・「LINE」を利用した双方向による登山相談、ホームページ等での動画発信、SNSを活用した情報発信に力を入れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協定書、仕様書及び事業計画書に基づき、新型コロナウイルス感染防止対策を講じ、適切な施設管理を実施したと認められる。</li> <li>・習熟度別や目的別など幅広い層に向けて、知識や技術の普及に向けた講座を開設したほか、新たな取組として、里山の魅力や注意点についての情報発信や、LINEを活用した登山相談などを実施した。昨年度からの継続事業に加え、タイムリーな課題への対応や時勢に合わせた発信方法の工夫を行いながら、設置目的に沿った運営が行われたと認められる。</li> </ul>	A
平等な利用の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の利用を希望する者には、施設の定員と安全利用限度の範囲内で適切に施設利用をいただくとともに、講習会の実施に際しては公平を規すため原則として先着順で参加いただいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用に係るルールを適切に運用し、平等な利用が確保できたと認められる。</li> </ul>	B
利用者サービス向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休館日に施設利用希望団体があった際には、職員の勤務体制を調整し受け入れに対応した。</li> <li>・施設利用者及び講習会参加者に、施設面の要望や講習内容の感想を記入してもらい、次回以降に活かすよう努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設利用者にアンケート調査を行うなど施設運営に利用者の声を取り入れるほか、利用者のニーズに応じたサービスの実施に努めるなど、利用者サービスの向上に努めている。</li> </ul>	B
自主事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に82回の講習会や研修会、教室を計画し、最終的には年間68回開催し、延べ664人が参加した。</li> <li>・次世代の担い手育成を事業の重点項目とし、小学生を対象とした初心者向けボルダリング教室を計22回開講した。また県体育センターと共同開催の教職員を対象とした講座を開催し、県内の小～高校の教職員9名に参加いただいた。</li> <li>・【新】令和4年度からクライミングや地図読み(読図)のビギナー向けプライベート講習を毎月開催。受講者の利便性と効率を考え、複数の中から好きな日を選び、必要な内容を少人数でピンポイントに学べる新しいスタイルの講座とした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大により当初計画通りに実施できなかった講習もあったが、一部を動画で配信するなど、昨年度に引き続き、状況に応じ工夫して講座を開催することができた。</li> <li>・より多くの一般登山者に必要な技術を伝える新しい取組や、小中高生及び教職員への講習を積極的に実施することにより、クライミングや登山をはじめとするアウトドアスポーツに親しむ機会の創出、安全登山の普及に資する取組を実施していると認められる。</li> </ul>	A
職員・管理体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕様書及び事業計画書に基づく職員体制及び管理体制で業務にあたった。職員一人ひとりのもてる能力と個性を發揮できるよう努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な職員配置が行われ、円滑な管理運営体制がとられたと認められる。</li> </ul>	B
収支状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収入は31,457千円、支出は29,015千円で、収支は2,442千円だった。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響に落ち着きがみられてきたこと、効率の良い運営と経費削減を心がけた結果、前年度以上の黒字を確保することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経費削減に努め、効率的な運営が行われていると認められる。</li> </ul>	B

(様式2)

総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会の内容を見直し、次世代の育成につながる事業へ注力した。併せて、安全登山の啓発活動や相談・援助事業にも注力することができた。</li> <li>・利用者目線に立って、適切かつ効果的な施設の管理運営に努めた結果、施設の老朽化は見られるものの、利用者の利便性や快適性を高めることができた。</li> <li>・十分なコロナウイルス感染対策に努めたことで、利用者の皆さんに安心して施設利用をしてもらえることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協定書等に基づき、適切かつ効率的な管理運営を行うとともに、感染防止対策や施設の環境改善を積極的に進め、安全管理の強化に取り組んでいる。</li> <li>・既存の取組に加え、新たに柔軟な日程による初心者向け講座の開催や、里山登山に対する安全登山啓発、SNSを活用した登山相談を実施するほか、小中高生がクライミングや登山に親しむ機会を創出するなど、その時々課題や状況に対応し、創意工夫をもって取り組んだ点が評価できる。</li> </ul>	B
------	--	---	---

- ＜評価区分＞
- A: 仕様書等の内容を上回る成果があり、優れた管理運営が行われている。
  - B: おおむね仕様書等の内容どおりの成果があり、適正な管理運営が行われている。
  - C: 仕様書等の内容を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要である。
  - D: 仕様書等の内容に対し、重大な不適切な事項が認められ改善を要する。

9 施設管理運営の課題

項目	指定管理者	所管課
施設の管理運営の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登山を取り巻く環境が大きく変化してきている。また、登山遭難件数は増加の傾向がみられる。このような状況の中で、施設のあり方が問われる時期を迎えていると考える。</li> <li>・施設全体に老朽化がみられ、小規模な補修では対応しきれない。特に水道設備と暖房設備については、大きなトラブルがいつ発生するかわからない状況である。また人工岩場の不具合箇所の確認と全面的な補修及びホールド等の交換工事が必要な状況である。</li> <li>・若い優秀な人材確保のためにも、指定管理期間の延長や、指定管理者決定方法の見直しをお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本施設は、登山者への安全登山の普及啓発や山岳に関する情報発信に重要な役割を担っており、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、その重要性はさらに増している状況である。登山者等を取り巻く諸課題に的確に対応していくため、センターの役割や機能について整理する必要がある。</li> <li>・昭和44年に建設され、施設や施設内の設備の老朽化が進んでいることから、緊急性を勘案した計画的な修繕に努めていく。</li> </ul>

10 第三者評価で指摘された事項の管理運営等への反映状況(第三者評価実施年度の翌年度以降に記載)

【実施年月日: 令和4年11月25日】

第三者評価における指摘・意見等	管理運営等への反映状況	
	指定管理者	所管課
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者へのサービスの前提として安全な施設・設備であることが必要であり、関係各所と連携して、老朽化している施設等の点検、補修等に力を注ぐ必要がある。</li> <li>・屋外の人工岩場は、登山(アルパイン)には岩登りの基本をマスターする上で重要な施設であることから、メンテナンスに努力してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊設備はもちろん、人工岩場とボルダリング壁につきましても、引き続き利用者が安全に楽しく利用できるような、管理の徹底と工夫に取り組んでまいります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の老朽化が進んでいることから、センターのあり方そのものについて検討を進めるとともに、点検の確実な実施、危険箇所の修繕については早期に対応し、安全管理を徹底してまいります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの山岳域を抱える本県は、必然的に遭難件数も多くなる。救助の役割を担う県警職員の技術向上のため、宿泊施設も利用した訓練の場となっていることから、県としてもさらなるサポートをお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、救助訓練施設としての提供、必要なサポートを行ってまいります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、救助訓練施設としての提供、必要なサポートを行ってまいります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・独自の調査研究や講習会・研修会等の開催のみならず、ホームページの運営やSNSの活用、さらには施設の管理および会計も3名のみで分担していることは過重労働になっているのではないかと懸念される。</li> <li>・信州の山岳に関する文字通りのセンターとしての役割を果たせるように、増員が可能な指定管理料の増額を県として考慮していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の設置目的に沿った事業の充実を図るため、専門性の高い人材確保に努めてまいります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登山を取り巻く環境の変化、登山者等のニーズに応じたセンターの役割・機能の考え方を再検討する中で、予算規模についても検討してまいります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の所管である山岳高原観光課のみならず、条例上の設置主体である教育委員会との連携を強化すべき。センター側のみでなく、教育委員会のさらなる協力を期待する。</li> <li>・「学校登山」の維持継続のためには、学校教職員がまず登山に関心を示すことができるようなプログラムを、教育委員会として予算処置を行いながら指導していただきたい。教職員の負担軽減、かつ学校登山の安全性の向上のためにも、優秀な登山ガイドを多数有する本県の強みを活かせるような配慮をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校登山の実施率の低下は、先生方の登山離れも一因かと思われます。約10年前までは、山をフィールドとした臨地講習が県内で開催されていましたが、現在では行われていません。県内の先生方に山や登山とのかわりを多くもってもらえるよう、教育委員会とも連携して教職員対象の登山研修などの機会増に取り組んでまいります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校登山は本県独自の登山文化として重要と感じております。研修プログラムについては、一部、小、中、高教員の指定研修の選択必修研修に指定するなど工夫して実施しております。引き続き、研修内容の充実にも努めるとともに、登山ガイドの活用を含め、安全性の確保に努めてまいります。</li> </ul>